

水害検証会議別録

④・丙・丁	大分類 F	中分類 01	委員会		
	(永)	10	5	3	1
議長	事務局長	局長補佐	調査係長	会議係長	係

【第9回】

開会	平成28年1月28日(木)午前10:00		閉会	同 午後0:10
場所	会派室(未来)			
出席委員	①金子晃久 ②関優嗣 ③遠藤章江 ④大澤清 ⑤中島亨一 ⑥中村安雄 ⑦中村博美 ⑧水野昇 ⑨寺田洋 ⑩堀越道男 ⑪茂田信三			
欠席委員	なし			
委員外議員	風野議長			
案件等説明のため出席した者	執行部 須藤市民生活部長 斎藤安全安心課長 (執行部書記 文藏安全安心課長補佐) (執行部書記 安全安心課臨時職員 戸塚千絵)			
事務局員	齊藤事務局長, 古谷補佐, 安田係長, 倉金書記			
署名	委員長 中村安雄	担当書記 同上		
案件	○要求資料に基づく説明及び質疑			

開 会 10時00分

○委員長 おはようございます。第9回目の検証委員会をただいまから開会いたします。場所が大変狭い場所で、会派室を使う以外は、きょうはございませんので、江連八間の選挙があるそうで、そちらで大会議室が使われているということで、この狭い会派室を使うことになりました。きょうは特に執行部のほうで説明をしていただくメンバーの皆さん、災害対策本部等からもおいでをいただいております。また、報道関係の皆さんのが大勢いただいておりますんで、大変狭い場所でありますが、内容のきちんと決まったことで進めていきたいというふうに思います。せっかくでありますんで、資料をたくさんいただいております。一通り目を通すことで皆さんにお配りしてあるわけでありますが、とりあえず資料の最初の部分から説明をいただいて、それから質疑をしていくという形をとらせていただければというふうに思いますんで、そういうふた面でひとつ説明者の皆さんには、よろしくお願ひをしたいと思います。きょうは市民部長さん、それから安心安全課のほうからおいでいただいているということで、よろしいわけですね。はい、そういうことでひとつよろしくお願ひします。それで資料をたくさんいただけておりますから、この資料が最初のほうから順次積み上げてあると思います。災害対策本部の指示とか対応とかっていうような内容が、全部書き添えてありますから、これは大変一つ一つやっていきますと説明が大変長くなるし、質疑も多くなってくると思うのですが、内容が内容でありますから、詳細な内容で質疑も進めなければというふうに思いますんで、よろしくお願ひします。じゃあ、部長のほうからでよろしいですか。

○須藤市民生活部長 それではまず、私のほうから今回委員会のほうから要求がございました資料について、1から10までにつきまして、お手元にあるように御提出申し上げました。詳細につきましては、この後課長のほうから一つ一つ御説明申し上げたいと思います。要求資料の中の3番でございますが、対策本部の議事録につきましては、今回の提出の中には入ってございません。水害があつて対策本部の会議の内容そのものをきちんと議事録にとって保存しておくこと、これは必要だったんだとは思いますが、現実として今現存するものが、はっきりした議事録というものがございません。それで事務局サイドとしては9日から始まっておりまして、対策本部は10日から立ち上がっています。9日、10日につきましては、9日は事務局サイド、安全安心課の内容ですけれども、10日に立ち上げてから録音は録っておりませんでした。メモ等が取ってある状態ではあったんですが、現存するメモが10日、11日のものについては、申し訳ないと言いますか、はっきりしたところは無くなっている状況でございます。その後の11、12日以降については一部の事務局本部員等のメモはありますが、そちらを整理しておりませんので議事録という形に残ってはおりません。これが事実でございます。時間的に余裕もございませんので、メモをまとめる時間もなかったということで、今回の提出には間に合わなかつたということで、今回出してございません。あとにつきましては、課長のほうから御説明申し上げたいと思います。3番につきましては、以上のようなことで、無いということを私のほうから説明させ

ていただきました。

○委員長 無いと。

○金子委員 間に合わないというのは、そのうちいろいろまとめて提出できる時期が来るということなのかな。

○須藤市民生活部長 10日、11日については、無い…。

○委員長 無いものは出てこないということだ。

○須藤市民生活部長 12日以降は各本部員がメモを取ったものが存在するのが、何人かいるんですが、それも議事録の呈をなすほどのメモとして、用をなすかというとちょっと疑問かなというような内容です。

○金子委員 10日、11日は全く無しと。これからも無しと。はい、わかりました。

○委員長 それはそういったことでやむを得ないと思います。じゃあ、課長のほうから。順序よく1番から。

○斎藤安全安心課長 はい。1番の災害対策本部の市対応の時系列ということで、避難指示の内容及び7回あったホットラインの内容につきましては、こちらにお配りしました2枚の中で、9月10日の午後1時50分までについては、まとめてここにお出ししてあるというとおりです。職員の配置につきましては、ちょっとこれについてはわからない状態なんで、ちょっとこれについては出してないです。そのほかに安全安心課で放送した内容につきましては、記録が残っておりますので、それは放送依頼書という形でまとめてありますので、こちらを出してあります。それと災害対策本部及び合同対策本部の構成メンバー、こちらにつきましてはA4、1枚のほうに本部と合同対策本部ということ、分けて載せてあります。内容的にはこの載せた方々ということになります。

○委員長 はい。じゃあ、災害対策本部の指示とか対応とかっていう、この2枚になっている文書がありますね。これらについてやっぱり、こちらから全部質問するよりは一定のところで、一通りこんなふうことで時間的にこういった内容の指示をして参りましたとかっていう話を一通りしてくださいよ。せっかくですから。ただ、私どもに配布してそのままというんじゃなくてね。

○斎藤安全安心課長 あつ、わかりました。それでは1枚目の災害対策本部の指示と対応についてご説明をさせていただきます。まず9月9日なんですが、ここに、22時54分ということで、この時点でのホットラインということで書いてあるんですけども、これが国土交通省の下館河川事務所のほうから、市長のほうに電話が入ったということで、この時点で若宮戸のほうで越水の可能性が高いので、避難所の準備などをしてくださいということが入ったということで、ここから市のほうは動きが始まったということになります。それで順次、部長招集、課長招集とかいうような形になってきて、最初に災害対策本部員であります、次の構成メンバーを見ていただき、この対策本部員の方の招集を…。

○委員長 この1枚紙ですよね。

○斎藤安全安心課長 そうです。構成メンバー一覧というのは1枚のA4です。

○委員長 これ、一応見てください。1枚紙。1, 2, 3…13人。

○斎藤安全安心課長 こちらの方に招集をかけて、0時10分に災害対策本部が設置される。その場所は庁議室ということになります。その中で協議をしていた中で、1時23分に同じく下館河川事務所のほうから、市長のほうにホットラインが入って、水位が上昇中であるということで、避難勧告を行ってくださいというホットラインが入ったということです。それを受けまして、1時30分に避難所をまず開設ということで、こちらで豊田小学校、豊田幼稚園、豊田文化センターのほうの避難所を開設したということになります。それで避難所の開設ができたということで、1時40分に避難準備情報を玉地区、本石下、新石下の一部ですね、新石下の一部というのは県道の土浦・境線から北側の地区になると思うんですけども、そこに避難準備情報の指示を出したということです。その後、続きまして2時に避難所開設ということで、岡田小学校、岡田文化センター、石下西中が、続けて避難所の開設をしたということです。それで2時6分に再度ホットラインということで、国土交通省のほうから市長のほうに連絡がありまして、再度水位が上昇中であるということで、避難勧告を出してくださいということで2時25分にそれを受けまして、避難準備情報を出しておりました玉地区、本石下、新石下の一部につきまして、避難指示を出したということです。その後、避難所への物資配給ということで、産業労働部のほうが避難物資の担当ということになっておりますので、そちらに物資配給の指示を出しているところです。2時50分には新石下地区の避難広報を修正ということで、これは一部地域を具体的な地域のほうに修正をかけているということです。それで2時55分には避難指示地域や安全避難の徹底ということを本部のほうで指示を出しております。それと3時5分には危険地域に職員を派遣することを決定ということで、対象世帯に避難の呼びかけということで、こちらは避難勧告を出した玉地区、本石下、新石下の一部の地区に職員を派遣することを決定したということになります。3時10分に避難指示とか出しているということで職員の第2次動員を決定しております。3時25分には石下の南地区に避難勧告ということで、これは新石下の一部ということで土浦・境線から南の地域の新石下及び大房、東野原、山口、平内、収納谷に避難勧告を出したということです。それを受けて3時30分に地域交流センターの避難所を追加しているということになります。3時45分には石下支所の職員5名と本庁職員10名を避難所対象地域へ派遣指示をしているということです。4時15分には石下総合体育館を、続きまして避難所追加をしているということです。

○委員長 課長ね、今説明している時間帯とこちらの放送の依頼書の時間とはずいぶんズレがありますね。どういうわけなんですか。

○斎藤安全安心課長 これは災害対策本部で決定しているのがこの時間。そこから放送するまでのタイムラグが…。

○委員長 かなりの時間ある。緊急を要するにも関わらず、こういった時間のズレはどういうわけで。

○斎藤安全安心課長 これはですね、災害対策本部から安全安心課のほうに避難の指示をして、安全安心課のほうでは1回機械に録音してそれから流したということです。

○委員長 録音で予備的にやって、それから本格的に流すと。

- 斎藤安全安心課長 それなので、時間のロスというのがあるのかなと思います。
- 委員長 この緊急時に予行演習やっているところじゃないわけだ。ほんとはね。
- 斎藤安全安心課長 それで4時48分にはホットラインでは、万が一の場合には浸水想定区域図を活用してくださいという下館河川事務所からのホットラインが入っているということです。5時1分には全職員に動員の指示を出しているということで、5時30分には給食センターに対して避難所の食事の対応ということで指示を出しています。5時40分には坂手の樋ノ口で、土のう積みの対応ということで、消防団と建設部職員20名ということで対応の指示を出しているということです。5時40分、同じく若宮戸のほうは土のうの間から水が溢れている状態という情報が入ってきているということです。5時45分に若宮戸地区の個別訪問が終了したという報告が災害対策本部のほうに上がってきていると。
- 委員長 何人で。職員が歩いたんでしょ、これは。
- 斎藤安全安心課長 これは職員と消防団です。石下の消防団の方で歩いていただいて終了したということになっております。5時58分にホットラインが入りまして若宮戸地点で越水が始まりましたというホットラインが、下館河川事務所のほうから入りました。また6時55分については水海道地区の12ヶ所の避難所の準備指示ということで、こちらにありますとおり水海道総合体育館、菅生小、菅生公民館ほか、ここに書いてあるところの12ヶ所について避難所の準備をするという指示が出ています。7時11分には同じく下館河川事務所のほうからホットラインが入っております、下流部の危険箇所からの越水も予想されますというホットラインが入っております。8時に坂手地区に避難勧告指示ということで、こちらについては小谷沼周辺の菅生地区、坂手地区、内守谷地区に対して避難勧告の指示を出していると。
- 委員長 これ、ちょっと待ってください。この辺までで一旦皆さんから質問を受けたいと思うんですよ。というのは、こういったこと、だれがどういうふうに決めていくのか、坂手だとか菅生だとか内守谷だとかっていう地区を選定している。だれか選定する人がいるわけですよね。わからないわけですから。地域全体がわかっている人じやない限りは、この指示はなかなかできないと思いますよね。場所を選定するというのは、高台にあるとか田んぼの低みがあるとか。今、小谷沼という言葉が出てきましたが、小谷沼というのがこの地域の中で一番低い水田地帯ですよね。だから、こういったことがわかっている人が指示して、このような形がとられているということだというふうに私は理解するんですが、おそらく皆さんもよく説明を受けていると、ちょっと疑問があるとか、ちょっとおかしいんじゃないかということがあると思うんですが、いずれにしてもさっきの報道関係じやないけど防災無線に伝わるまで30分くらいの時間があるということそのものだつて、緊急を要するときにすれば30分という時間は大変貴重な時間ですよね。だから、こういった指示をする人の立場もおそらく、冷静さを失って混乱するような事態に入ってきてるから、こういった指示の仕方をする形ができちゃってるのかなというふうに思える部分もありますんで、ちょっと今ここまでの中で皆さんお気づきの点があつたら、今までの中で質問していただきたいと思います。

○堀越委員 ちょっと気になるのは、坂手地区に避難勧告指示と言ったけど、避難勧告を指示したということなの。避難指示というのと避難勧告というのは別問題だよね。これはどういうことなの。避難勧告ということで理解していいのかな。避難指示というのは緊急を要するものだからね。そういうものが段階的にあると思うんですが。その捉え方はどうなるのか。それと先ほどの浸水想定区域図を活用してくださいというのが4時48分にありましたが、あれは前に金子議員が言ったように2時6分に最初に出ていたんだよね。ホットラインの<聞き取り不能>が出たときの避難勧告を出してくださいって言ったときの、あれは氾濫シミュレーションが送付されているんだよね、この時点で。その内容というのはこのやつに載っていて、時間を追って水海道の隅々まで水が来る時間帯も書いてあるというようなことあるんで、この活用について金子議員が質問していたようなんだけども、この送付された時点でのシミュレーションに対する対応というのかな、例えば大きく貼り出して、それでどうするかという対策をとったのかどうかっていうのが、それはちょっと疑問なんですが、その点はどうだったんですかね。

○委員長 今2点質問がありました、答えられれば答えてください。

○斎藤安全安心課長 最初の1点の坂手地区に避難勧告指示というのは、ちょっと書き方のあれで、避難勧告を出すように指示が出たということで理解をしていただければと思います。

○委員長 勧告を出すように指示をしたと。

○堀越委員 この浸水想定区域図というのは送付されたんだけど、どういうふうなところでどういうふうに利用していたんですか。

○須藤市民生活部長 議員おっしゃるのは、色分けされて、黄色とか青とか、全体が、それで最大何時間後にはここまで来るというようなことだと思うんですよ。それはそのときの記憶なんですけれども、私は見ていました。そういう言い方したら変なんですが、それを本部員全員で、張り紙をしてあったかどうかという記憶が、ちょっと今のところ私には戻ってないんですが、あとこれを各本部員が手元にあったかどうかというのが、実際に勧告を出したり指示を出したりというのは、安全安心課が中心になりますし、私も含めてですけれども、この地区、対象から言いますと、玉ですか本石下とか、道路でこの辺までですか、そういうふうな案を考えました。当然本部というか、みんなにかけて避難決定という流れかなと。そういうような流れです。

○斎藤安全安心課長 すいません、3時25分に石下南地区に避難勧告と載っていると思うんですが、これは玉地区の溢水の後の何時間後にここ来るよっていうのを確認して、南地区のほうに避難勧告は出したと思います。

○堀越委員 きちんと利用しているということ。（「はい」との声）

○須藤市民生活部長 このシミュレーションは少なくとも本部にはあって、それは見て知っています。このシミュレーションは若宮戸の溢水をもとにしたシミュレーションですので、逐次上流側から、まずはここら辺までということで出したのは確かです。それを本部員全員が張り紙でやって、あるいは目で見ていたかというのは、ちょっと記憶は定かではないんですけども。少なくとも安全安心課、私等は見ています。

○堀越委員 全体で共有する必要はあったと思うんだよね。

○斎藤安全安心課長 この石下南地区に出すときは、本部員全員で協議していますので、この認識はあると思います。でないと、ここが例えば何時間後に来るよと、だからここは危ないだろうということを本部の皆さんで協議した上で、じゃあ、ここに出しましようということになったんだと思います。だから、そういう本部員全員の共有はあったと私は思っています。

○委員長 石下地区にしても三坂のほうにしても、あの辺の地盤はもう一体なんだよね。高いとか低いとかっていう、段差がほとんどないですからね。水が入って来れば地区全体が水害に遭うというような場所だよね。

○茂田委員 委員長、いいですか。

○委員長 はい。

○茂田委員 私、地元で、何時頃かな聞いたの、うちの近所の方、議会で質問したときも明確な答え出なかつたよね。まず、豊田小学校へ指示するということで、うちの隣の先月亡くなつた人いるんだけどね、急病だったんだよ。急病じゃない、大病していて、豊田小学校へ今から行くんだって言うんだ、避難に、私やめさせたの、どうしてだか知つてゐる。昭和63年か近辺に小貝川が氾濫したでしょうよ。何でその氾濫したところに避難させるって、どういうあれで決めたか、まずそれ聞きたい。あと、言った、言わないになるから、その避難した人が自動車を豊田小学校においたら、もう水が入つてしまつたから、自動車をどうするんだと言つたら、小貝川の堤防の上へ避難しろと、言ったんだ、自動車。これは、だれが言ったとか言わないとか、これは水掛け論だから、犯人捜しするつもりはないけど。それは間違いないんだよ。言った人が言うんだから。何でそういう馬鹿な指示出すの。わかつてゐるでしょうよ、昭和63年にあそこ氾濫して、三坂地区は水すごいのつちやつたんだよ。あそこへ避難するということは自殺行為だよ。私はやめさせたんだから。その病気の人に。あんなところ行つたら死んじやうって。その何時間後に今度交流センターのほうへ行つたんでしょ。交流センターって低いでしょうよ、あれ。ただ建物があるからそこへ避難すればいいだとか、そういう問題じやないだろよ。だれがそれ決めたかちょっと言ってもらえる。豊田小学校へね、あと豊田幼稚園か。吉原君って、支所長なんかは石下の住民だから、どこが低いだとかわかるでしょうよ。あとマップでシミュレーション、どこ、どこ決壊したらどこ、どこに乗るっていうの、わかつてゐるわけでしょ。それまず、だれが豊田小学校へ指示をしたか、それちょっと聞いてもらえますか。これ重要なことだからね。この次こういうことがあつたら死んじやつていたよ。あれ。

○委員長 茂田議員の今の質問が2点くらいあるようですから、そちらで答えられる内容的な面でね。正確性があまりないものを答えられると、またいろいろと責任問題になつても困りますんで。そこらのところをきちんと考へて答弁してください。

○斎藤安全安心課長 それにつきましては、要求資料の10番に水害の恐れのある豊田小、地域交流センターを避難場所とした理由というのがございまして。

○委員長 うん。避難場所とした理由。はい。

○斎藤安全安心課長 災害対策本部でたぶん協議した結果だと思いますけども、若宮

戸のほうからの溢水ということで、水が向こうから流れて来るということで、途中に常総線があつて国道があつて、それらが緩衝帯になるだらうということで、その後東側に八間堀がありまして、そこが、堤防があるということで、たぶんそこで氾濫水が遮られるということで、やはり一番離れているということで、豊田小のほうが安全じゃないのかと、たぶんそういう判断になって豊田小になつたんだと思います。

○茂田委員 私言っているのは違うんだよ。言っていること。わからないのか、あんたちは。私言っていること。鬼怒川より小貝川のほうが、決壊が多いんだよ。あの雨で小貝川と鬼怒川は距離いっしょでしようよ。たまたま向こうが溢水、土手ないところだから水漏って。小貝川が氾濫するとだれも言わなかつたの。そういうこと。同じ川なんだよ。同じ石下地区の川なんだよ。昭和63年のときは小貝川が決壊しても鬼怒川は何もなかつたんだよ。やっぱり案の定、それから豊田小学校とか危なくなつてこっちへ移動したんだろう。だれか言ったはずだろうよ。そんなの。そもそも議事録ないっていうのがおかしいんだよ。これだってテープ録つてあるんだろ、全部。

○委員長 茂田委員ね、要するに今回は小貝川のほうについては問題がなかつたわけです。

○茂田委員 いや、たまたまなかつたけど、小貝川のほうが危険なんですよ。鬼怒川より。

○委員長 だから、危険であったとしても、現実的には今回は小貝川からの氾濫はなかつたわけですから。

○茂田委員 違う。私言っていることわからない。

○委員長 わからない。

○茂田委員 泛濫あるとかないじやないんだよ。全然危険じやなかつたら豊田小学校から移動することないだろうよ。それ言っているんだよ、おれは。100%ではないけど、かなりの確率で豊田小学校が安全だったら移動することないでしようよ。そんなのも読めないの。議会のときちゃんと答えないから、きょう、おれ検証するんだよ。どうして危ないところへ避難させたって。さっき言ったのは、若宮戸が溢水してその水がこっちへ来るから、防波堤が、バイパスあるから大丈夫だつて話だろ。その話と違うでしようよ、まず。小貝川は氾濫している実績あるんだよ。もし安全なところれば、また避難する必要ないでしようよ。病人なんかいたら死んじゃうよ。そういうことやつたら。あんたら思いつきでやつてるとしか思えないんだよ。拳句の果ては、議事録ないだろ。だれが指示したのか会議に出てればわかるだろうよ。さっき冒頭に委員長も言ったけど、地区の詳しい人じやないとわかるわけがないでしようよ。豊田幼稚園とか豊田小学校とか。どうしてそのとき…おう、課長聞いているのか、話。聞いているときは目を見るんだよ。お前向こうなんか見てやつてはいるから、こういう指示出しているんだよ。旧石下の管理職も来ているはずでしようよ。それも言わなかつたの。管理職も。あそこは昭和63年に小貝川が決壊しているから、あそこはまずいですよとか。そのために石下支所長は石下出身になつてはいるんだろ。あと手分けになつてはいるんでしょ。そしたら、各地区から来た管理職、意味ないでしようよ。それ言っているんだ、おれは。安全な場所だったら何で移動するの。

○須藤市民生活部長 先ほど課長申し上げましたように、八間堀ですとか、バイパスだとか、そういうのが緩衝になるというようなもとに、豊田というような、言った記憶があります。今回の水害については、鬼怒川の上流でかなり雨が降ったと。線状降雨帯というようなあれですね。確かに茂田議員おっしゃられるように、小貝川のほうも今までの経緯からすると氾濫の危険がゼロではなかったと思います。ただ、当時は小貝川というのはそういうような指示はございませんでした。

○茂田委員 移動することないでしょう。最初から、安全だったなら。

○中島委員 いいですか（「おれはもういいよ」との声）、先ほど課長のほうから294とそれから八間堀が緩衝帯になるという話でしたけども、それは何か根拠があつて緩衝帯になるっていう発言ですか。

○斎藤安全安心課長 それは、私はわかりません。災害対策本部の方たちがそういう形での結論を下されたんであつて…。

○中島委員 決定を下す前段階で、緩衝帯になり得るだろうという判断を対策本部の中で下したわけじょ。それはだれが発案したんですか。緩衝帯になるでしょうと。なぜかというと、この手法で言うと、ここに豊田城があるのね、豊田城があつて294があつて、その先に八間堀があるんだけど、この地域ですでに、これは道路より上に水があるのね。この写真でいくと。ということは、294も八間堀も緩衝帯の役目はしてない。全然。

○委員長 それ以上の水害があったということだよ。要するに。水位が高くなっているわけだよな。

○中島委員 だから、基本的に緩衝帯になるということは、地形図を見て、例えば294の高さが何メーターあるから、地形図で見ればわかるでしょう、この時点での294の高さは海拔何メーターだと。だから、この高さは越えていかないだろうとか、そういう基本的なデータに裏付けされた緩衝帯としての役目だと、そういう意味なんだということがわかつていればいいんだけども、ただ道路があつて道路は越えないだろうってね。

○委員長 だれかの意見に従つたんだよ。それはおそらく。

○中島委員 全体が低いところに道路があれば、それよりもさらに水田地帯が低ければ、水田にあわせて道路があるような感じだから。水は一定に来るのね。簡単に越えてくわけよ。だから、その判断の根拠になったものがないのに、緩衝帯だろうということを決めたのは、対策本部の誤りじゃないかと思うんだよ、というふうに考えているんだよ。ここらへんは、どうせ答えは出ないだろうから、ただそういうことなんだよ。要するに、きちんとしたデータに裏付けされたものの考え方をしなきやいけないっていうこと。あそこは道路があるから大丈夫だろうといつても、水は一定にやって来るんで。そういうのは通用しないということだけは頭に置いといてもらわないと。

○委員長 昭和60年の時点で小貝川が決壊したときには、緩衝帯になったということだけは、確かに当時はなりましたよね。あれは道路が役に立つて八間に水が落ちて鬼怒川に水が落ちたから、西側は助かったというふうなことも確かにあったけど。今回の水の水位は全然問題じゃない、今の堤防だとなんとかはもう全部越水しちゃって

いるわけだからね。その辺の差は極端に違いはありましたよね。だから、だれかの意見があつたんでしょうよ、それはね。そういうことで緩衝帯があるからその辺はいいんだろうということ。それに災害本部の皆さんは、それに従ってそういう結論に達したというようなことになつたんじゃないですか。だれもがそうだということじゃなくても、そう言われりやうなんだ、みたいな気持ちになる可能性ありますからね。知らない人は話ができないままに了解しちゃうというようなことがあつたのかというふうにも思われますね。

○金子委員 僕、2点質問がますあります。何回かホットラインが入つたということで、氾濫シミュレーションの件もあれなんですけど、このホットラインというのは市長のほうに入って来るものだと思うんですけど、そのホットラインの情報は災害対策本部または職員の間で、どれほどシェアできていたかどうかをお尋ねしたいと思います。

○須藤市民生活部長 ホットラインは市長の携帯に入つてきます。

○金子委員 その内容に関しては市長からこういうことがあつたんだって、シェアしていたんでしょうか。

○須藤市民生活部長 基本、市長が受けて市長から話が伝わるということになります。それが今回これを見ますと7回あるんですが、どのように伝わったかというのはちょっと記憶が定かではありません。

○金子委員 市長に電話が入つて、市長がじやあこれが入りました、こういう対策本部があるとしたら、今こういう情報が国交省からもたらされましたってちゃんと皆さんにシェアできていたのかということです。例えば部長にちょっと入っちゃつたんだよと、耳打ちくらいで、担当課でなつたのか、それとももし全部こんなホットラインが入つているなんて、たぶんあの時点では我々も知らなかつたけど、市長で抱え込んでいたとかというのは特にないですね。

○須藤市民生活部長 抱え込むことはないと思います。

○金子委員 ちゃんとシェアができているということ…。

○須藤市民生活部長 その伝わり方がどういう経緯かはちょっと今の私の記憶は…。

○委員長 市長がどのような加減をしてるかまではわからない。

○須藤市民生活部長 私に直接入つたときはあつたかどうかも記憶が定かではないんですが。

○金子委員 ということは、こういう公式な場で災害対策本部のほうでこういうことがありましたと、正式には何回かあるうち、こういうふうなちゃんとしたところではあつた…。

○須藤市民生活部長 あつたですけれども、すべてがそういう形だったか、その時間は必ずこういう席上じやない時間もありますし、向うからの一方通行ですから、その受けるときの状況にもよると思うんです。実際こういうふうに整理されて7回あって、その7回すべて耳を澄ませて私が聞いたかという記憶は定かではないです。間接的なところがあつたかもしれませんし、こういう場だったかもしれませんし。それははつきりとお答えできないのが正直なところです。

○金子委員 1点目の付隨で、資料請求の中の9番、水害シミュレーションに対する市の対応ということで、ちょっとこれ読んだら、1時40分に避難準備情報を発令したというのが、ちょっと整合性がないなと思ったのが、2時6分にこの避難シミュレーションをいただいて、その前にこの避難指示を発令した後というのは、これは避難シミュレーションというのは1時40分にはなかったわけですが、その1時40分に出した後シミュレーションが来たから、その下を避難勧告を出したということなんですね。

○須藤市民生活部長 そうです。

○金子委員 わかりました。2点目に移ります。2点目なんですが、22時54分の時点での国交省のほうから若宮戸地区に越水する可能性が高いということで、全くこれは正確な情報だったというふうなことから考えて、最終的に戸別訪問が終了した5時45分の時点ではまだ越水は始まってなかつたと。この資料では読み取れる。私いろいろなここまで8時までの対応を考えたときに、戸別訪問が越水の前に、ほんとに10分前くらいに終わったということは、一つこれ災害対策本部じゃないんですけど、初期対応としては、私は評価できるものかなというふうに考えているんです。これまあ検証なんで、その悪いほうばかりじゃなく、こここの時点では非常に戸別訪問が越水の前に終わったということに対して非常に消防団やすずっと夜から街宣車でまわっていたということが、一つこれ非常に対応はよかつたというふうに私は考えていますが、それどう考えますか。

○斎藤安全安心課長 これは消防団の方が、団長、副団長が安全安心課のほうに早くから詰められていて、夜だということで、避難するに当たっても、暗い中で非常に危険だろうという話が出まして、消防団のほうでも、夜ということもあるんで、防災無線だけでは不十分だろうということで、消防団のほうでも、地元の本所の消防団車をまわして、広報しながら確認をしましようという話が出まして、それではぜひやっていただきましょうということで、そういうふうなことでまわられたという経過があります。

○金子委員 非常に組織立ったと言いますか、非常に意識の高い常総市の消防、とりわけ石下地区の方々の、この対応に関しては、僕は評価に値すると感じます。以上でございます。

○堀越委員 関連でいいですか。2時6分のホットラインなんだけど、避難勧告、これ避難指示じゃなかったんですか。避難指示じゃない、このときは。そのあと避難指示なんだよね。だって1時23分に避難勧告だからね。それで、2時6分だからさ。また同じような勧告するかい。

○斎藤安全安心課長 1時40分に出しているのは、避難準備情報ということで、これはとにかくそういう可能性があるんで、逃げる準備をしてくださいということで、避難準備情報を出していると思うんですけども。それなんでそのあと避難勧告を出してくださいということで入ったのかなと思います。

○堀越委員 あっ、そう。勧告でいいのね、そうするとね。

○委員長 よろしいですか。はい、遠藤委員。

○遠藤委員 9月9日の23時以降のことについて質問したいんですけども、氾濫危険水位がレベル4に達する見込みということが、ホットラインで情報があったと。23時に氾濫危険水位レベル4に達するという連絡が下館河川事務所から入ったという時点で、既に常総市役所、もう水没するであろうということもあわせて連絡があつたというような情報があるんですけども、この時点で災害対策本部がまだ設立されてない段階で、常総市の市役所が水没するというような認識があつたかどうか。あと、市役所が水没してしまうという認識をいつしたか。災害対策本部が。その2点を教えていただきたいということ。あともう一つは、災害対策本部と合同対策本部というのが2つあるんですけども、私は9月10日の2時40分に災害対策本部の中の部屋に入ったんですけども、そのときはまだ合同対策本部の一部の人たちが災害対策本部のデスクのまわりに散らばっているような形で、一体感というのはまるつきりとられないような状況だったんですけども、つまり市の災害対策本部と合同対策本部というのはどういう位置づけで、どのように行動を共にしてきたかということについて説明していただきたいと思います。

○須藤市民生活部長 前日9月9日の時点で、私一人なのでほかの部員の意見はわかりませんけど、正直水没するとは思っていませんでした。

○遠藤委員 というのは、国交省のほうから市役所も水没しますよっていうような情報をしっかり流しているというのを、国のほうでは言っていますよね。

○委員長 どこにある、それ。ここに記載ないですね、それはね。市役所が水没するとか。

○斎藤安全安心課長 そういうのは、私は聞いておりません。

○遠藤委員 前日の夜に、11時過ぎに。もう市役所は既に危険氾濫水位の状況と共にハザードマップを示せば、その段階で必ず市役所は水没するってわかりますよね。ですから、そういう情報は流しているというのをちょっと聞いたんですけども。例えば市長へのホットラインとかでも、このままでは常総市の市街地も含めて水没するっていうような情報は一切入ってなかつたんですか。それじゃあ。

○斎藤安全安心課長 22時54分の時点ということでしょうか。

○遠藤委員 要するに9日の時点で。9日の23時以降で。それ以降に、国交省のほうはこのままだと市役所も水没するというような情報を流しているということも、少し聞いているんですけども、実際はどうなんですか。それは嘘の情報なんですか。

○斎藤安全安心課長 9月9日は、安全安心課は4名で待機をしていました。市長もずっと待機をされていたということを、最初私はわからなかつたんですけども、ずっと市役所にいたということをお聞きしまして、市長のほうにホットラインが入つたということで、市長が安全安心課のほうに来られて、国交省からこういうホットラインが入りましたということがあって、そこから災害対策本部を設置する動きが始まったわけなんですけども、そのときにはホットラインで市役所が水没するというお話は、私は聞いておりません。

○遠藤委員 そうすると、災害対策本部として市役所は、要するに心臓部ですよね、災害の事態では。その心臓部が危機に襲われるという認識はいつもたれました。災害

対策本部の中でそういう認識はあったか、なかつたかというのが一番問題だと思うんですけども。市長含めてね。市長に対してはおそらく正確な情報を流しているんだとは思うんですよね。国のほうも。要するに市役所が水没するというのは大変なことですから。そういう情報というのは、おそらく流しているんじゃないかと思うんですよ。そういう認識というのは、災害対策本部では全くなかつたんですか。

○中島委員 85台公用車が水に潜るまで気が付かないんだから、ないんだよ。意識は。

○委員長 わかつていれば対応したよな。

○遠藤委員 あともう一つ、市民生活部長は災害対策本部のメンバーであるから、当然私は認識していたじやなくて、そこに参加している人全員同じ認識じやないとだめなわけですよね。私はどうだったとか、私は知らなかつたとかっていう言葉があるんですけども、災害対策本部の機能というのは、どういうふうになつていたのかというのがこれからも大切な問題で、個人個人じやなくてピラミッド方式で災害本部長をトップとして、すべて情報はピラミッドのように下の職員まで伝わらなくちゃならないと。こういう状況が果たして今回の水害のときに、災害対策本部の機能がなされていたのかどうか。これがもしきちんとなされていなければ、この次来年また同じ水害がきたらまた同じことになるんですよね。だから、そのところはしっかり検証しなくちゃならないんで、正確なお話をしてもらいたいんです。それで私が先ほど言ったのは、合同対策本部としていろいろな国交省からの人、自衛隊の人、警察の人、とにかくたくさんいたんだけども、ごちゃまぜになっていて、ただ動いてるだけで全然情報は共有されていないし、何をしていいのかわからない状況で、県から派遣された職員もぼうっとしてる状況です。それでこれは県の職員が私に話してくれたんですけども、3.11のときも常総市からは、県に情報が伝わらないといって問題になつていたんだと、常総市は、県に情報が上がってこない市なんだと。いろいろなところと比較して。ですから、今回も来ているんですけども、なかなか情報が上がってこないと。つまり合同対策本部で来た方たちと、市と全く情報が共有されてなくて、機能がしてない。こういう状況なのかなつていうふうに思ったんですけども、つまり3.11のときの教訓もいかされてない。今回もきちんと検証して改善しなければ、この次起つたときも同じことが起こる。こういうことなんです。ですから、災害対策本部の状況をやはりきちんとここで証言していただきたい。きちんと。どういう状況だったか。

○委員長 今そういう意見が出ました。大変厳しいですよね。今まで過去にもそういったことであったと。それが今回も改善されないままに水害に入ったというようなことになるわけですから。どうですか、今の遠藤委員の発言に対して。

○須藤市民生活部長 遠藤議員がおっしゃられますように、市の対策本部は招集して、メンバー揃っておりました。ほかの警察ですとか、県、消防、そういう機関の方も駆けつけていただきました。自衛隊もそうなんですけど。最初その方たちを交えた会議というのが機能していませんでした。これは事実です。その合同というのが。それは事実でございます。

○遠藤委員 そうすると、ちょっと時系列で説明してもらえますか。

○須藤市民生活部長 それが…いつからとははっきり記憶ないんですが、いつしょになりました。最初は市だけで単独でやっていて、入っていただきました。それは発災後…。

○遠藤委員 この災害対策本部が設置されたのが10日の0時10分。

○斎藤安全安心課長 10日辺りはたぶんこちらの災害対策本部のみでやられていたと思います。こっちの合同対策本部として始まったのは、少し経つてからのことだと思います。

○遠藤委員 つまりね、たくさんいろんな人が集まってくるわけですよね。要するにその人たちが野放し状態なわけだったんですよ。見ていてね。野放し状態。結局指示なし、やることもわからない。ただ部屋にいる。これは要するに災害の防災のマニュアルの中で、職務分掌なり指示の出し方なりというの全然決めてなかったんですか。例えば合同対策本部をいついつつくると、それで市の災害対策本部と合同で何かをやるとかって、そういうマニュアルなり職務分掌というのは常総市の防災マニュアルの中には存在しなかったんですか。

○斎藤安全安心課長 それはないと思います。合同対策本部に関してはですね。

○遠藤委員 合同対策本部に関してどうするかというの…。

○委員長 まあ、かなりこれね、ずっとホットライン見ているだけでもかなり危険が迫ってきてることは明らかだったんだ。これは、全部な。それを末端まで伝わっていかなかつたことが、問題がこういったことになったというような内容だよな。

○遠藤委員 あともう一点いいですか、議事録の件ですけど、これは議事録をとらないということが度々あって、議会の中でも絶えず問題になっているんですよ。絶えず。大切な会議で議事録をとってないというのは。それはわかっているはずですよね。職員の皆さんも。散々一般質問でもやっているわけだから。それで同じ間違いを繰り返しているとは、到底やっぱり思えないんですよ。昔みたく速記者呼んで速記とするというんじゃないくて、今は便利な電子機器があつて録音一個押せばいいと。この段階で録音がありませんでしたというのは、これはやっぱり責任問題です。絶対に。これは許されない、絶対に。これ度々ですから。議会の中の会議でも。これは逆に言うと、いつも録音はどの部署が録るはずだった、この部署が録るはずだった、お互い罪の擦り合いで言うんですけども、今回の場合はどこが録音を録る部署だったんですか。議事録作成の義務がある部署。

○委員長 どこだっていう決まりがないから、そういうことになるんですか。

○斎藤安全安心課長 災害地域防災計画の中から言えば、災害対策本部の中に統括班というのがあります、安全安心課、秘書課、総務課これがやるということになっています。

○委員長 人任せになっているんだ、お互い。

○堀越委員 どこがやるのは、ないんだよね。

○斎藤安全安心課長 ないです。3つの中の統括班がやるということになっていますので。

○遠藤委員 そのだれも、録音を録りましょうということは、一言も言わなかつた

ということですね。じゃあ。

○斎藤安全安心課長 そうです。

○委員長 大混乱をするから、そうなのかもしれないけれども、やっぱりそれらは対応がきちんとしてやるほかないですよね。まあ冷静さがもどればそういうことになるわけだし、その時はその時でなかなかそういうわけにはいかなかつたと。

○遠藤委員 私が見ている限りでは、災害対策本部が設立されて、2時ぐらいの段階では割とのんびりしていたように思うんですよ。中は。そんなに緊迫感がなかつた。全くなかった。余裕はたっぷりあった。

○委員長 本部が水没するという意識がなかつたということは、はっきりしていますからね。

○遠藤委員 本部が水没するという意識はいつあったんですか。そのところだけ教えてください。いつ頃から、逆に、県、国から市役所が水没するという情報はない、なかつたか、あつたかということ。このままでは災害対策本部が水没しますっていう情報が県、国からあつたか、なかつたか。あと、自分たちが認識したのはいつか。自分たちというのは、災害対策本部が認識したのはいつか教えてください。これでは災害対策本部が水没するということを、共有したのがいつかっていうこと。あと、県と国からこのままでは災害対策本部は水没しますよっていう連絡があつたか、なかつたか。

○須藤市民生活部長 外部から直接、水没しますというような連絡…、具体的に本部としてその連絡は受けてないと思うんですが…。その答えが正しいかどうかという自信ないです。記憶が定かでないです。まあ水没するのを認識したのはいつかというのも、はっきりした、この時点でというのは、なかなかどの時間なのかはわかりませんが、前日から当日10日の前半にかけてはまだなかつたと思います。

○中島委員 先ほど遠藤さんから出ていたけども、対策本部は現況把握できていましたか。どういう状況に市が置かれているというのを、現況把握をできていましたか。市の対策本部の建物が、庁舎が浸水してくると。そういうのも含めてだけども、要するに現況把握というのが行われていたかどうか。ずっと見ていたんだけども、対策本部3階にあって、それから下へ職員をどんどん、どんどん越水している地域とか、いろんなとこへ午前中のうちから派遣して、今どういう状況になっているんだって、そういう現況把握、それってわかっていましたか。そういう指示を出したのって、だれが出すんですかね。対策本部の指揮者はだれですか。じゃあ、もっと簡単に。対策本部の最高責任者はだれ。

○須藤市民生活部長 市長のほうがなっております。

○中島委員 市長から現況把握しろという指示が出ましたか。

○須藤市民生活部長 現況把握と言いますか、その辺の情報というのは市民からの情報もばんばん入って来ましたし…。

○中島委員 いや、そうじゃなくて、市民からの情報じゃなくて、自分たちが職員を派遣して今現場がどういう状況になっているかという、そういう現況把握をしたかどうかって聞いているんだ。それができないから、現況把握することができないん

で、3階にいて、安全などろにいるわけだ、3階の。そこで外から入ってくる情報だけで現況把握しているわけよ。あとはカメラで。自分たちの職員が行って把握しないでしよう。

○中村委員 ちょっと答えるのに時間あげて。

○中島委員 いや、把握していないから。要するに…。

○中村委員 もちろん、もちろん、問題はそこ。

○中島委員 浸水して、役所の近くまで水が来ていると。このままいたら役所が浸水しちゃうと。そうなつたらば、例えば自家発電装置も1階にあって使えなくなる。太陽光からの電源も1階にキュービクルが置いてあるから、これも使えなくなる。そういう判断できないわけでしょうよ。現況を把握していればこれは大変だと。電源を確保しなかつたら何もできなくなると、最後は。そういうとこ考えていました、だれも。最高指揮者はそういうこと考えなかつたのかね。みんなに指示しなかつた。

○委員長 部長もトップの立場ではないということだけは確かですから、今言われますと混乱したりなんかして、その冷静さが戻っていないと答弁ができないところもあると思います。時間ちょっと1時間5分まわっていますから、暫時休憩を取ります。その後、ひとつお答えをいただくような形をとっていただきたいと思いますんで、大変でも15分に再開しますから、それまで休憩をとります。

休 憩 11時05分

再 開 11時15分

○委員長 じゃあ、再開します。ちょっと遅れましたが、よろしくお願ひします。中島君のほうよろしいですか、今の…。

○中島委員 いや、だから、きちんと指示ができたかどうかなんですね。市長が皆さんに指示できたかどうかだけ確認したいんだけど。指示しましたか。

○須藤市民生活部長 市長がどれをもってきちんと指示をしたうんぬんというのは、私からは言いにくいところですが。

○中島委員 いや、言いにくいじゃなくて、指示したかどうかだけ言ってください。

○須藤市民生活部長 結論的な、最終的な指示というのはございました。

○中島委員 そりや、最終的にはするだろうよ。途中できちんと適切な指示ができたかどうかっていうこと。

○須藤市民生活部長 どのように答えていいのか、ちょっと…。

○中島委員 できないとして、考えますよ。じゃあ。あと、電源に関して10日の午後3時に停電になっているんだけども、それ以降電源どういうふうに確保しようとかそういう考えはなかった。

○須藤市民生活部長 そのときには水が迫って来まして、水没する前に落ちてしまった。

○堀越委員 説明したからにしてもらってからにしたらいいでしようよ。中島君、先進み過ぎているからよ。

○委員長 中島さんね、一応そこの8時のとこまでで一旦切ってもらって。そうしてください。

○中島委員 はい、はい。

○委員長 中村博美委員。

○中村委員 はい。今堀越さんからシミュレーションの話が出ていたんですけど、そのシミュレーションで、もう既に常総市は水没するよといったときに、第一段階でもう常総市全部に避難指示を出してほしかったというのが結果ですよね。それができなかつたら、今度は2時6分の市長へのホットラインで、水位が上昇で避難勧告を出してくださいって、このシミュレーション時ね。ここで出さなかつたにも関わらず、次には3時25分には石下の南部に、私が一般質問した山口、平内、収納谷に避難勧告を出して上三坂や沖三坂には出さなかつたって、これもそうでしょ。それも置いておいて、今度、私5時50分に対策本部に入りました。そのときに7時11分のホットラインで下流部の危険箇所からも越水が予想されますといったときに、もうここで全員にしてほしかつたね。三坂から水海道全域に。ここでなぜ出さなかつたのかというと、今の話で市長はホットラインを共有したのかというところ、私7時11分に市長から、ただいまホットラインが出ましたなんて、そういうのは記憶ないよ。全然ないよ。あつたら私だって、じゃあもう早く上三坂にも出してよって言いたいよね。でも、そのときにもまだそんなことはなかつたんですよ。これ7時ですよ。私が一般質問したのは10時頃上三坂の区長からもうすぐ越えそうだからどうにかしてくれって、土のうをくれって言ったんだけど、土のうはここで見たらいろんなところ土のうを積んでいる。5時40分に坂手の樋ノ口で土のう積みしたとかね。どうして上三坂に土のうちょうどいって言ってるのに、坂手で土のう積みして、上三坂にも土のう積みしない。どうにかしてくれって言われたのが10時。結局もう越えそうだから、じゃあ紙に書いて、上三坂に出してねっていう紙を出したにも関わらず…、これは後でもう一回質問するね。収納谷、山口に出さなかつたものを、この7時11分に、これも今中島さんと同じ、指示がなかつたんですか、市長から。市長から指示なかつたの、7時11分のホットラインはどんなふうに受け取ったんですか。課長じゃなくて、部長。

○須藤市民生活部長 このホットラインは、私は記憶ないです。

○中村委員 ないよね、私も記憶ないもん。

○須藤市民生活部長 いや、あつたかもしれないですが、とんでもいるのかもしれない。それちょっと<聞き取り不能>しません。

○堀越委員 ホットラインの下流部の危険場所というのは、どこを指すんですか。若宮戸の下流部、自然堤防じゃなくて、掘削したとこじゃなくて、もう一つの十一面山のところの低いところだな、というふうに理解したんだけれども。

○中島委員 そうじゃないでしょ。これはだってその頃、その時点で長ノ入でも、樋ノ口も、豊岡も、高野も、何箇所も越水、もうぎりぎりだったんだよ。

○委員長 どこでもおかしくないくらい越水したんだよ。確かに、それは。

○堀越委員 そういうことなんですね、理解は。下流部というのは全部を言うんだと

いうことですね。はい、わかりました。

○水野委員 今皆さんのお意見をいろいろ聞かせて、これまで来ましたけども、これ一回一回に聞いた結果、各地区で考え方も違うこともあろうかと思うんですが、いろいろまとめるときに座長にお願いしておきたいのは、一回ごとの時間を割いていただいてまとめはやっておいてもらいたい。一度にまとまって後で検証の結果をまとめといつてもなかなか難しくなるんで、やってもらいたいということが一つあるんですが。それと、執行部もここにありますけども、なかなかだれも予測できないような水害ですから、ここでいろいろ言うのも検証の結果、洗い出すのには当たり前だと思いますけども、私は何か市長とか、だれとかって責任者を責めるような形じゃなく、もっと冷静にしてもらうと言うとまた語弊があるかもしれませんけども、検証の結果をぴちっとした結果を今後につなげるために、もっとやってもらうのに、この一回ごとの委員会でちゃんとした皆さんの意見も聞いて集約しておいてもらったほうがいいのかなというふう思ってますんで、お願ひしておきたいということです。

○委員長 これはやっぱり、確かに、全部を洗い出してそれを最後にまとめようとすると、なかなか過去を振り返る、内容的にきちんとした内容が出せない部分もあると思いますから、その時点その時点を記録していく必要あると思いますよね。

○水野委員 いいですか。さっき遠藤さんからもあったように、こんな大きな水害があって、これまで何回も間違いというのはだれもしようがないんですが、あるんですよね、合併10年経って。私から言えば。ここで言うべきじゃないのであとにしますけども。都合が悪くなると執行部は録音を録ってないとか、それは出ないとか、そういう話は絶対に今後はないように市長にもお願ひしますけども、やってください。録音がないと、議事録も会議録も残せないんですよね。ちゃんとした組織の中にある常総市の中で遠藤さんからも言ったように、録音がないなんて話はもってのほかですかね。資格ないですから、執行部というのはいいところもありますけど、甘いところ多いんですよ。公人というのは。国家公務員でも地方公務員でも。自分のお金で給料払う、皆さんからもらっている金で。そこらに甘さがあるから、今後はしっかりとやってもらわないと困る。特に会議や何かで録音を録ってないなんていうのはもってのほかだと。

○委員長 今水野委員から話がありましたが、確かなることでそういったことは、責任は重大だというふうに思います。しかしながら、今回は大混乱をしたことによって答弁ができない部分がたくさんできているというようなこともあるようですが、市民から言わせれば、役所というのが機能を十二分に果たして、初めて市民サービスなんだり、市民の安全を確保したりすることができるということですから、指示の間違いや指導の間違いがあれば、これは取り返しのつかないことがたくさんできてくるというふうなことになりますんで、二度と再びそのようなことがないようにというような今ご注意があったというふうに思います。要するに8時の時点までに話を集約して、皆さんから御意見をいただいたわけですが、8時以降についてあまり時間もないんですが、とりあえず説明、一応はしてください。

○遠藤委員 ちょっと委員長、8時前まで、もう一回確認。いいですか。3時5分に

職員を現場に配置と書いてあるんですが、これは、現場というのは避難所なのか、それとも実際の災害現場なんですか。

○須藤市民生活部長 若宮戸付近の避難をしてくださいというような…。

○遠藤委員 それは何課の人というのは把握しているんですか。だれが派遣されたかとかというのは、今回現場には職員がいなかつというのは、みんな証言してるの。それぞれの決壊現場に。あともう一つ聞いたのは、部長は災害対策本部にいたけど、課長以下がみんな避難所に行っちゃっていて、困っていたという話も聞いたんですね。避難所が現場ということなのか、災害現場なのか、そのところの区別はどうですか。きちんと災害が起こっている現場に職員を配置して、その現場の災害の状況をきちんと本部で吸い上げていたかどうかっていうことを確認したいんです。

○須藤市民生活部長 こちらの3時5分につきましては、先ほど言いましたように、避難の呼びかけということですので、若宮戸地区に避難してくださいということで…。

○遠藤委員 職員を配置した。

○須藤市民生活部長 避難所につきましては、これだけ大規模に避難所というのも。職員をどのように派遣するかというのに非常に困って、こんな長期化するという想定も及ばなかった。課長が行くとか、そこまで本部員は把握しきれておりませんでした。どこの職員が行くというのは。実際、水没しちゃいまして、課長が行っていたというのは後から知った状況にございます。ですから、避難所を開設したときに、どういう職員がどういうように配置するかというのをきちんと整理できていなかったという事実はございます。

○遠藤委員 そうすると、やっぱり今後整理しないと。一番トップになる人がいなくて現場は大混乱だったという感じありますよね。

○中島委員 若宮戸に職員を派遣して避難しろと、これ若宮戸がもうだめだというは、かなり前からわかっていたのかな。3時前に。

○須藤市民生活部長 当初から若宮戸越水という想定で今回の災害対策は…。

○中島委員 この22時54分、9日の、この時点で、若宮戸で越水の可能性が高いからということで、それを受けて3時には職員を派遣したっていうこと。

○須藤市民生活部長 今回、上三坂の決壊というのは全然想定しておりませんで、今回の水害というのは若宮戸の越水ということでシミュレーションなり河川から来ていきましたので。

○中島委員 それで3時に派遣したんだ。職員を。

○遠藤委員 結局現場に職員がいなくて、災害対策本部に入ってくる情報というのは、唯一市民からの連絡で情報をとっていたという感じなんですよね。市民がここどこが決壊しそうだとか、一生懸命電話していた。あと、八間に限っては樋管のところで水が溢れだしちゃっていて、土手を越えているから何とかして樋管を閉めてくれとか、そういう電話を一生懸命市民がしていたと。そういう電話はどういうふうに市は受けているのか。例えば代表電話のところに1本でラインが入って来るのか、それとも災害が起きた時点で、いろんな部署に情報する収集する電話のラインをつくっていったのか。どういうふうに当日の電話を収集していたのか教えていただきたいのと、あ

と市民が八間堀川に関しては、電話しても担当者がいないからわかりませんって言わされたという電話もあったらしいんですよね。そうすると、災害が起きたとき市民はどこに電話したらいいのか、そういうのはさっぱりわからない状況ですよね。どこに情報をお伝えたらいいのか。そうすると、その当日は、電話はどういうふうになっていましたか。電話のラインは、全部代表電話で受けているんですか。受けた電話をどういうふうに情報を流していたんですか。その電話の内容を。

○須藤市民生活部長 電話は市役所の代表ですべて入ります。直通もあつかもしれませんけれども、基本、代表で市民からは入ります。受け手の職員体制というのも、はっきり申し上げて体制がきちんと整って受けたということではなくて、もうばんばん入ってくる、そういう状況で受けていますので、職員が誰か受けると、回ってきて、ただ、災害関係なので安全安心課に回ってくると、そういう流れであろうと思います。ですから、ばんばん入ってきても、答えられる職員の役割とかもきちんとされてなくて、安全安心課では答えたとしても職員に限りがありますので、つながらない状況は多かったんだと。

○遠藤委員 逆に代表電話に入ったのは、ほとんど安全安心課に流れてきちゃっているということなんですね。

○須藤市民生活部長 ですから、安全安心課じゃなくても答えられる情報はあったかもしれません。そういう整理はされていたかどうかというのは、ちょっと私どもはそこまではわからないんですが。そういう予測はつきます。本部というか、そこまでつなげる情報だとか、そういう交通整理がされていれば少しは整理された可能性はあるかとは思いますが。それは今思うことなんですね。

○遠藤委員 災害に特設ラインみたいにして、ぱーっと職員で手分けして市民の情報を全部受けるというような体制はなかったということですよね。要するに担当部署が安全安心課だから、ほとんどの情報が安全安心課にかかってきちゃって、その中で、てんてこ舞いしちゃったという感じになってしまいますよね。

○委員長 とりあえず8時までの件についても、定かでない部分がたくさんでてきてから、これらも含めて次回のときに聞きただしていきたいというふうに思います、これはやっぱり代表者に来ていただくということになると思いますんで、そういう形を取っていきたいと思います。これの後の8時からの分について、記載がありますから、これちょっと説明いただきて、また質疑をしていきたいというふうに思います。

○斎藤安全安心課長 8時何ですけれども、坂手地区の下のほうからでよろしいでしょうか。これは市民の方から、京マロン付近で越水しているという情報があったということです。8時10分には、下妻のほうも同じ鬼怒川の危険があったということで、宗道小学校とかを早くから開けていたということで連絡があって、避難するんであればうちのほうも聞いてますから使ってくださいという連絡があって、そちらのほうに玉地区とか石下の北のほうの方たちは避難もかなりしたということで、その中で宗道小学校がいっぱいになったんで、千代川体育館を今度は開けましたのでそちらのほうも使ってくださいということで連絡がありまして、千代川体育館のほうへということ

です。8時30分には給食センターに食事の指示をしていたということで、パンとおにぎり3,000食が用意できたということで、ここで配布の方法を検討したということです。8時40分には県に対して自衛隊の派遣要請を行っています。8時45分に新石下橋の西側ですね、そちらに避難指示を出すようにという決定ですね。8時55分に9時から有料道路が無料になるという連絡があつて、防災行政無線、ホームページで周知をしたと。9時30分に水海道地区の避難指示ということで、こちらに書いてありますとおり、国道354号線南側の水海道地区に対して、避難指示を出すようにということです。9時35分には鎌庭出張所のほうから、土のう積み要請ということで、これは石下橋の右岸のほうですね。向石下のほうからということで要請があつたということです。9時40分には自衛隊のほうから派遣要請があつて300名が行くよという報告があつたということです。9時50分に向石下地区に避難指示を出すという決定がされました。同じ9時50分には県の防災ヘリを要請したということでしたけど、結局この時点では県の防災ヘリは天候不良で飛べないということで、来てはいただけなかつたと思います。10時15分には上三坂・中三坂上・中三坂下地区に避難指示ということで指示していると。10時30分には美妻橋の大花羽側のほうに土のうの要請があつたということです。11時40分に大輪町と羽生町に避難指示を出しています。11時42分にホットラインが入りまして21キロ付近で越水、避難してくださいというホットラインが入っています。（「21キロというのはどこ」との声）21キロというのは、いわゆる決壊場所の辺りだと思います。11時55分に小谷沼周辺の坂手地区、内守谷地区、菅生地区に避難指示を出すようにという決定がされたと。12時40分に国道354号線の北側のほうの中妻、水海道、橋本、小山戸、森下、相野谷に対して避難指示を出すようにということで、12時50分には上三坂が決壊したということで、その後1時2分に国のはうから連絡がありまして、八間堀、篠山高野排水機場をとめる、そのために内水が発生することがあるという連絡があつたと。1時50分に下館河川事務所のほうから4時間後に三坂町の水が街中に流れてくる予想であるんで、つくば市、つくばみらい市に避難を促してもらいたいというようなことがあつたということです。

○委員長 はい、どうもありがとうございます。という説明がありました。そういうことでまた皆さんからこの件で。はい、金子委員。

○金子委員 地元なんで言わせていただきます。上三坂に関して、この10時15分の避難指示を出したと。これはどういうことなのかって、説明をいただきたいんですが。放送依頼書に関しまして、この上三坂というのは、放送依頼の段階で抜けたのか、それとも避難指示を災害本部で出すというのが決定されて、こっちで抜けたのかっていうことをちょっとお伺いしたいんですけど。ここでは上三坂に指示出したということはありますよね。依頼書にはないからそこで落ちたんでしょうか。

○委員長 どこで落ちたか。実際には依頼がなかつたということですか。指示はしたことですよね、これはね。

○須藤市民生活部長 今回提出した資料では、上三坂というのは入っております。実際のこの後の放送依頼書という防災無線を流す原稿にあたるわけですが、そちらには

抜けているんです。この経緯、抜けたということについて、対策本部でわからないというのが…。

○金子委員 それちょっと確認しますよ。この資料がつくられたと。それで、15分の段階で出しておりますと言ったのは、これは後付けなんですか。それとも、何か…。

○須藤市民生活部長 これの根拠はですね、議事録、録音等はございませんが、会議をやっている中で板書と言いますか、ホワイトボード、あるいは紙に時間で何を指示出したとか、そういうのをしながらやっておりました。それには記録があります。この上三坂というのがあります。

○金子委員 じゃあ、その災害対策本部では指示を出したという認識で、しかしこの放送に関して、そこで抜け落ちてしまったということでいいんですか。

○須藤市民生活部長 実質的にはそういうことになります。

○金子委員 なるほど。

○須藤市民生活部長 本部は3階にございます。庁議室でやっておりました。防災無線は安全安心課の隣の部屋が放送室になっておりますので、そこに伝達が必要になります。その伝達のところで抜けたのか、あるいは伝達方法で抜けてしまったのか、その辺はわかっていないです。

○金子委員 じゃあ、これ最後にちょっと申し上げたいんですけど、この災害対策本部の指示ということで、上三坂には15分に出しましたと言い切っちゃっていいですか、この資料で。ここで出しているということは、災害対策本部としては上三坂に指示を出しましたと、出しましたよねってことになるじゃないですか。

○須藤市民生活部長 本部の決定と言っていいかと…。

○金子委員 本部決定は出したと。

○須藤市民生活部長 板書した段階で、その時間で指示すると、そこが本部の決定と。それを受けた防災無線の担当が、連絡を受けて流すということで、そのタイムラグが先ほど課長言ったように何分かあるわけなんですけども。

○金子委員 それは事実としてはそうですけど、結局は出してない。これを見て市民が思うのは、こういうに出してあったけど、出してないというのは、これはあなたたち内部の問題でしょう、ということになり兼ねないような気がするんですよ。だから、これが正式なものとして、災害対策本部で出しましたけど、出してなかった。じゃあ、あんたらが結局は出さなかつたでしょって言われちゃう可能性があると。だから、こういうふうに正式に書いちやうっていうのは、これはいかがなものかというのが私の意見です。

○中村委員 続きでいいですか。一般質問しましたよね。私が手のひら大の紙に書いた上三坂が、指示依頼書には書いたんでしょ。依頼書には書いた。それは私の紙を見て書いたかどうか、そんなのはもういいよ。わからないんだから。どう調べてくれと言ってもわからないと言うんだもんね。それ何なんだか。ここに依頼書に書いて、今言った金子さんが、依頼書に書いたら、もう指示出したことになっちゃうよって。だから、ここに書いていいんですかって言ったら、いいんだよね、依頼書には書いたから。依頼書に書いたものが、ここではしっかりと16分後に中三坂上、中三坂下地区に

- 避難指示が出されましたって、これはもう確実に決定だから。決定、これ。
- 須藤市民生活部長 確認しますけど、私言っている本部の中では、後ろにありますこの放送依頼書というのは、安全安心課の防災の担当がつくるんです。この様式で本部から行くわけではないんですね。これは放送する者が打って、メモなり電話なり報告を受けて自分で原稿をつくって、依頼書何時何分って、まあ時間抜けているときもありますけれども、打ってこれで確認をしてやるわけなんです。ですから、本部は板書というか、内部でこれも記録ですけれども、記録では上三坂というのはあるということなんです。
- 中村委員 わかりました。本部ではあったけど、依頼書に書くのが抜けたのか、書いた依頼書から発表するのが抜けたのか、それわからないの。
- 須藤市民生活部長 わかりません。
- 中村委員 何でわからないの。
- 須藤市民生活部長 その間のものがないんです。
- 中村委員 依頼書に書き忘れたのか、書いた依頼書を読み忘れたのか。それは調べてよ。
- 須藤市民生活部長 この資料は災対本部で、会議録はないんですが、先ほど言いましたように板書した紙を写真で残したものを持こして課長がつくったものです。
- 中村委員 その書いた紙っていうのは、私が書いた紙。
- 須藤市民生活部長 じゃありません。本部員の中の記録していた担当の職員が、本部員もしくは本部長なんかが指示とか言ったとき、何時何分、どこへ指示とか勧告とか、そういう…
- 中村委員 しつこいようだけど、命関わっていることだから、私しつこく言っているよ。調べ直して。
- 委員長 今、調べ直してくださいよという話なんですが。片方は指示をしたと、片方はその報道されてないという、防災無線からの話は出て来なかつたということ。
- 須藤市民生活部長 もう少し細かくお話をすると、本部で指示が出ました。じゃあ、防災無線で流しなさいと。したときに具体的にメモなり電話なりで、安全安心課の担当の者に伝えるわけです。通常、メモで持つて行って、そのメモを見て担当が放送依頼書にパソコンで入力して起こす。その後は、メモを持ってあるものと、もう捨てているものとあります。その上三坂のところのものについては残っていないということなんです。ですから、そこにあったのかどうかもわからないということになります。
- 茂田委員 いいですか。
- 委員長 はい。
- 茂田委員 まずこの放送依頼書を読んで、二つほどちょっと聞きますね。つくば市の旧豊里町役場、JA谷田部本所を避難所として開設していますので避難してくださいって、みんなこれ式だよね。まず場所わからないよね。どこと言つても。避難できない人どうするんです、これ。お年寄りなんか当然車できない。たまたま今回昼間だからよかつたけど、夜だったらこれまず行けないよ。防災無線でやっていれば自分らはもう済んだと思うけど、これみんな見たらね、どこどこに避難所開設しましたから、

そこへ避難して下さいって、どうやって行くの。地理わからぬでしょ。あと、あすなろの里へ避難して下さいとかね。うちのほうは全部もう水浸しになっちゃつて避難できないし、お年寄りは当然車ないよね。カーナビあるところばかりじゃないし、カーナビ使えない人はどうやって行くの。どこへ避難して下さいって。私は全部聞いたって場所わからないもん。

○委員長 それは、ちょっとね。これはおそらくね、そういった指示はしなきやならないから、指示はしていると。ただ、それを具体的に、じゃあ、どうやって…。

○茂田委員 それがこの次の課題なんだよ。課題。まず訓練もやってないし、みんな防災無線でやった、やったと。これわからないよ。どこへ行けって、おれ行けないもの、まず。つくばみらい行ったときないもん、その場所。行く人はどこに集まってからバスが出ますとかっていうならわかるけど。わからないよ、これ。これで避難して、これで全部完璧な避難だって。だれもこれ100%だめだよ。行けないよ、まず。これ夜なんかどうするの。もし親切に、ほんとに避難する場所あったら、何時何分にバスが出ますからってやらなくちゃわからないでしょう。そこまで考えなかった。どこへ行く人はまずどこかへ集まってください。バスを仕立てますとか。じゃないと、行けないよ。

○委員長 今、茂田議員が言っていることは確かにことだよ。でも、現実にはそういうところまでは手を打つてないことは確かですからね。もう市内全域が避難の指示があつたんですよ。いずれにしてもね。西側も東側も全部ですからね。

○茂田委員 だから、これね、この防災無線ゼロだからね。この次も教訓として、どこへ集まってバスを仕立てるとか、じゃなくちゃこれはもう…。水埋まつたらもう見殺しだよ。これは早急にやらなくちゃだめだよ。雨が降るっていうんだから、そういうのを、降雨線状だったかな、それになったんだから、二、三日前から準備しなくちゃ。泥縄式で場当たりでしょうよ、もう。この放送はゼロ。あとは、市長側の避難指示、最初出したって。出しました。で、出さない。出したって、二転三転…最後脇で課長が言ったんだよな。出しませんと。何でああいう公の電波使うのに二転三転のか。なあ。あれ全国流れているんだよ。全国だけじゃなくて全世界行っているんだよ、今は。BSなんかは。あんないい加減なあれやつちゃだめだよ。それについて言ってくれる。おればかり話したって、これ検証だから。

○須藤市民生活部長 一件目のバスの…。

○茂田委員 いやいや、だから、避難の指示出して、これは有効かどうかまず聞かさせてもらえる。

○須藤市民生活部長 それにつきましては、確かにバスを何時何分と、こういうような手配というのは、そこまでは考えというか、準備はできておりません。

○茂田委員 これ、避難出して、これ有効だと思う。おれ行けないよ。おれだって。

○須藤市民生活部長 この防災行政無線で避難勧告、避難指示出すというのは当初我々も避難所を設定して、その避難する場合にはどこというような場所を設定することは必要だということで、それは示しております。数うんぬんはちょっと置いたとしても。そのことでもだいぶ苦慮しました。先ほど言われるように川東はすべて低

地ですので、明らかに高いところではありませんので、いいわけかもしれませんけれども、まず防災というのは逃げることが大事なんです。ですから避難所の設定よりも、まずは危険だと、逃げなさいと。ですから、避難所は後でもいいと。後は各自の…、無責任と言われるかもしれないですが。

○中村委員 そんなことないよ。

○須藤市民生活部長 逃げなさいという指示が必要だということから見れば、防災無線は有効だったと私は思っています。これは本部員だれも思っています。ただ、それが十分だったかどうかというのは反省するところはあります。

○委員長 十分だっていうことはだれも言わないよ。聞こえないところもいっぱいできているし、それはあるよ。

○茂田委員 それはわかった。あと今度、何で放送、二転三転、あのマスコミの出した、出さない、出した、出さない、最後に出してないと言ったら、はい、出していくまんと。何でああいう横のつながりできなくて軽率に言うの。

○須藤市民生活部長 その時には、私ちょっと別の人間ですけども。やはり災害が起きてすぐで、情報の確認も十分取れてなかつたのかなと思うんですけども、発言は…、市長じやないんで、私も言えないんですけども。その辺が、ちょっと確認が不十分だったかなとは思います。

○委員長 はい、わかった。その程度ね。はい、遠藤委員。

○遠藤委員 委員長にお願いしたいんですけども、資料を整理しなくちゃならないと思うんですね。中村博美議員と金子議員からお話がありましたので、上三坂に災害対策本部として指示を出したという部分は、これは削除しないといけないと思います。結果としては出してないということがわかつたと。中の紙がどうなったかというのは内部の事情ですから、これは全然関係ない。市民として、結果論として上三坂は出してないんだから。これはここから削除しなきゃならない。この資料からは。だから、削除を要請します。

○寺田委員 一応、私も聞いたんですけど、避難指示は本部では決定しているんですよ。だた、防災無線では言わなかつたっていうだけの話で。

○遠藤委員 いや、だから、出してないんだから…、それは記録しなくちゃならない。きちんと、これを削除して。

○寺田委員 だって、決定はしてあるんです。記録はこれでいいんです。

○中村委員 記録はこれなんだよ。

○寺田委員 ただ、防災無線で言わなかつた。どこかでその過程で、どこかはわからぬけど。

○委員長 放送しなかつただけで。

○寺田委員 そう。

○遠藤委員 でも、結果は市民には伝えてないということは、記録しなくちゃならないでしょ。だってここで記録していないのが明らかになっているんだから。

○委員長 依頼書の中にはなかつたということは、放送しなかつたということでしょ。

○寺田委員 避難指示を出そうというのを決定したという意味でしょ。

○中村委員 そこを問題にしないとだめなんだ。決定したものがなぜ言われなかつたのかというところを問題にしないとだめだから、これ削除しちゃだめなんだ。

○遠藤委員 それじゃあ、ここに加えないとだめですよね。ただし、防災無線では言わなかつたっていうことはね。

○金子委員 その事実は重要です。

○遠藤委員 このままこれ採用はできない。この資料は絶対に。このままは。

○中村委員 そういうふうに書き直して。削除してはだめだ。あともう一ついいですか。12時50分、ほんとは12時45分だけど、上三坂が決壊しました。その後で13時8分に三坂以外の人は避難してくださいって指示出したの、これ、ないんだけれど。依頼書に。何で。依頼書にないよ、9月10日の、部長、これ、9月10日11時57分の次、何でないの、依頼書、決壊後に、中三坂以外の方に避難指示を出したよね。それこここの記録にもないし、依頼書もない。

○須藤市民生活部長 9月10日午前11時57分の次に、9月10日で時間入っていませんが、「こちら防災常総です。鬼怒川が三坂町地内において決壊しました。鬼怒川東側の市民の方は、早急に鬼怒川西側に避難をしてください。」これが13時8分。

○中村委員 13時…時間ないけど、これが13時8分。

○須藤市民生活部長 はい。

○斎藤安全安心課長 これは、安全安心課のほうの起こした者に聞いたら、決壊して緊急だったんで、さっき言ったようにほかは録音して流していたと、だけど、ここは緊急だったんで、もうそのまま流したと。そういうことだったんで、その時間的には入っていないということです。

○中村委員 ストレートに言ったんだ。

○茂田委員 その次も時間ないのは緊急だったの。つくば市のJA、避難所として開設しておりますっていうのは、その次も時間ないよ。

○須藤市民生活部長 単純に記入漏れがないとか、そこまでちょっと確認取れないんですが。

○茂田委員 避難所は緊急じゃないもんな。時間忘れちゃったんだな、こっちはな。

○金子委員 ちょっといいですか。上三坂の先ほどの避難指示が本部から出されているが、放送しなかつたっていう部分が一つあったと。たぶんホワイトボードでこうやってくつづけて紙やって記録してあるやつですよね。その記録って。その中でいろいろな地域名出してあるんですけど、それ全部ここと、こことここはちゃんと出しているっていう検証。要は上三坂以外のところで出し漏れ…、こういう伝達ミスとかいうものは、あと検証と言いますか、その辺は、検証はなさいましたか。

○委員長 どうですか。

○金子委員 ほかのところで漏れちゃっているということは。三坂が偶発的になくなっちゃったのか、それとも伝達する関係で、欠陥がもう既にそこであったのか、焦つちゃっていたのかというのを知りたいんですけど。もしあれだったら後で教えて下さい。

○須藤市民生活部長 13時8分には鬼怒川東側の市民ということで、すべてここで

はクリアはできるんですけども、通常町単位ですとか、石下は細かく出しているんですけども、通常町名でなっています。三坂については、上中下とかというような表示はございます。

○金子委員 黒板に書いてあるものと、放送したっていうところで、避難指示を決定したが、放送しなかった上三坂は一つの例として、もしかしたら、ほかのところでそういう伝達手段のミスって、混乱の中であったのかどうか。

○斎藤安全安心課長 12時40分に避難指示で国道354号線の北側、中妻、水海道、橋本とかありますよね。これについては、放送はしてないです。というのは、この時点でここに出しましようという話になったと思うんですが、その後10分後に上三坂堤防決壊してしまったんで、もうその時点でここを放送するいとまがなくて、これについては、放送はなくて、<聞き取り不能>という形になってしまったと。

○金子委員 それだけいろいろな混乱状況がうかがえるということですね。

○中村委員 混乱状況をうかがえても、私今言ったようにホットラインの一番最初若宮戸があつて、若宮戸には職員を派遣して、今金子議員が評価すると言ったけど、みんな戸別訪問も終わっている、今度7時11分のホットラインで下流部も危険だよつていったときには、どうして今度上三坂からずっと来ないの、職員の派遣もしない。訪問もしない。逃げてくださいとも言わない。ましてや、今の話、じゃあこれ1時50分に4時間後には三坂の水が街中に流れ来る予想というのに、このときにまた既に今度まちに職員を派遣して逃げてくださいという車を出すべきでしょ。若宮戸が終わって、終わっちゃったの。みんな。職員は。わかるよ、いろんなことやらなくちやならないから。今言った混乱しているっていうよね。でも、遠藤さんから言うと、何か市長はパンやおにぎりやそんなことばっかり口にして、対策本部の中で、そういうこと気にするのは、違うよ市長じゃない。市長はそれするべきだったんじゃないの。若宮戸の、全部訪問して逃げてもらってオッケー。じゃあ今度は上三坂、7時11分の時点で上三坂から中妻の人、今度は今の話4時間後に来るんだから、1時50分には、今度はまちの人に戸別で歩かなかつたのかっていうのを、それちょっと部長、何も指示なかつたのか答えて。何の指示もなかつたのか。

○須藤市民生活部長 職員はこの時点で避難所をかなり開設しておりました。職員がかなり出払っている状況でもありました。確かに、そういうふうな若宮戸と同じようにやる必要が、今で思えばそういうふうに思います。ただ、その時点ではいろいろな仕事が、というか情報が入って、その対応もしかりですし、どうしようというようなことで…。

○中村委員 分かりました。だけども、さっき言ったでしょ。逃げるのが一番だって言ったじゃない。逃げてもらうのが一番だったんでしょ。おわり。

○遠藤委員 一つお願ひは、例えば9時50分に旧市内に避難いくつか出しましたよね。例えば水海道の亀岡町と13時8分の時点で本町とか亀岡町で全部同じ場所なんですよね。諏訪町と橋本町もくつついているの。だから、結局隣の家同士で諏訪町と橋本、本町と亀岡って分かれるんですよ。だから、避難指示の出し方で、これ一回でだしたほうがよかったんじゃないかなっていうことがわかるの。これ見ると。町内ほん

とに家一軒で町内が違うんだから。その避難指示の出し方は、よほど広範囲で、さつき言ったように出した方がいい。これは絶対に。

○委員長 だから、それは現場をよく知つてないとそのことはできないんだよ。

○遠藤委員 そのとおり、あと無線で落ちたのも、もし上三坂の職員が無線を握つたら、絶対こんなことは起こらない。大きな話になっちゃうけど、職員も地元の職員をたくさん入れなさいって言う方針を言う方もいる。これはそういうことなんですよ。市外の2時間も3時間も車で来るようなところから通っている人に、果たしてこういう市のことわかるかといつたらわからないんですよ。やっぱり。もう一つ、中村博美議員のさっきの質問に、私代わりに答えさせていただきます。私現場にいたから、最初に水海道地区に9時50分に避難指示が出た段階で、車がなかつたです。避難指示を無線が全く聞こえないという情報はばんばん入ってきてた。市民から。災害対策本部の中に。その時点で、マイクがついているパトロールカーで何とか市内回ろうっていう話になった。それで車を探したけど、車がその当時なかつた。やつと見つけた車が2台あって、それで市内を回つたんです。旧市内、水海道市内。それは1台いっしょに乗つたからわかる。当時の状況は車探しといつても、その当時石下に行って被災しちゃつた車が結構あつたんですよね。それちょっと説明して。そこだけ、石下で会議があつたのか何だかわからないんだけど。結構な車が石下に行つちやつていて、戻つて来られなかつたと聞いた。

○須藤市民生活部長 申し訳ありません。私わかりません。

○委員長 おそらくこれ全部はわかつてないですよ。部長にしても課長にしても。一応、ただいままでの話で一旦打ち切ります。それで次回については首長にも、最高責任者になりますから、災害本部の本部長にも出席をいただくという形をとつていただきたいと思いますんで、それらについてはやっぱり本部長だけでも答弁できないでしょから。この次の予定なんですが、首長の予定が2月8日2時半から5時15分までというふうな時間が示されましたので、2月8日の1時…。

<不規則発言>

○委員長 8日は色々入つてゐるね。それではこれはこちらにお任せくださいて、大変でもそちらに都合合わせてください。来月は議会も入りますんで、これらについても皆さんにお聞きしながら決めていきたいと思うんですが、最初の日だけ決めたいんですよ、できればね。だけど、市長の都合が、2月8日が2月に入つて最初なんですね。

○齊藤事務局長 2月の日程だとその辺しか今のところあいてない。

○委員長 これしかないんだ。8日はだめなんですよ、私らもみんな入っちゃっていますし。

○茂田委員 後で決めたら連絡してください。よく調整して。

○委員長 じゃあ、それでいいですか。そういう決め方で。

○茂田委員 いいですよ。

○委員長 じゃあ、そういう決め方で決めさせていただきますんで、その都合は万全を期して、御都合つけてください。そういうことでお願ひします。じゃあ、部長、

課長どうもありがとうございました。閉会にさせていただきます。大変ありがとうございました。

閉 会 12時10分